保育所整備充実等に関するニーズ調査

報　告　書

平成２４年２月

鹿児島大学男女共同参画推進室

目次

調査の概要 **2**

実施方法等 **3**

調査対象者 3

実施方法 3

実施期間 3

結果 **4**

1. 回答者 4

2. アンケート回答者の子育て、保育の状況 5

3. 保育全般に対するニーズ 6

4. 郡元地区保育所設置に対するニーズ 8

5. 郡元地区学童保育に対するニーズ 14

6. 保育所設置場所について（自由記載） 16

7 保育以外の保育支援について（自由記載） 19

総括 **23**

付表　アンケート用紙 **24**

調査の概要

平成 22 年 11 月に実施した男女共同参画推進に関する意識調査では、育児との両立の困難さと大学の育児支援の必要性が示された（平成 23 年 5 月報告)。これを受けて、鹿児島大学が育児支援、特に郡元地区の保育所設置を検討するにあたり、現時点での保育支援に対するニーズを把握し今後の企画立案の参考とするために、小学生以下のお子さんをお持ちの方、近い将来お子さんをお持ちになる予定あるいはご希望の方を対象に、平成 23 年 10 月 7 日から 11 月 9 日までを回答期間として web 形式で無記名のニーズ調査を実施した。

＜調査結果の概要＞

男性 68 名、女性 88 名、計 156 名が回答した。現在小学生以下の子供をもっている人が 113 名、将来子供を持つ予定／希望している人が 38 名であった。

大学に望む保育支援は保育所の設置 89 名（57.1%）が最も多く、次いで一時保育 74 名（47.4%)、学童保育 57 名（36.5%）があげられた。

郡元地区に保育所が設置された場合に、是非利用したいと回答した人は 28 名であった。可能であれば利用、利用を検討と答えた人をあわせると利用する可能性がある人は、156 名中 120 名（76.4%）に及んだ。現在保育所の預入対象児である 6 歳未満の子を持つ人に限ってみると 66 名が利用する可能性があり、うち 15 名は是非利用したいと回答している。将来子を持つ予定／希望する人では 37 名が利用する可能性があり、うち 12 名が是非利用したいと回答している。郡元地区の保育所が提供されるサービスとしては、延長保育 95 名（60.9%)、病児（発症時より）／病後時保育（回復期）89 名（57.1%)、一時保育（短期、不定期の利用）80 名（51.3%）と回答者の過半数以上の希望が示された。

郡元地区での学童保育に関する項目には 138 名が回答しており、必要 87 名（63.0%）必要無い 42 名（30.4%)、その他 9 名（6.5%）であった。

現在 3 歳未満の子供を持つ人と将来子供を予定／希望している人は保育所の希望を、また、現在 6 歳未満の子供を持つ人は学童保育が必要だと回答しており、近い将来の子育て、保育についての不安が回答に反映されたといえる。

以上のことから、大学からの保育支援に関するニーズの大きさがうかがえる結果となった。

実施方法

調査対象者

小学生以下のお子さんをお持ちの方、近い将来お子さんをお持ちになる予定あるいはご希望の教職員（大学院生を含む）

実施方法

回答者の属性に関する質問 5 項目、保育状況と保育支援一般に関する質問 3 項目、郡元地区の保育所のニーズに関する質問 6 項目及び学童保育に関する質問 2 項目（選択方式）並びに自由記載 2 項目の質問表を男女共同参画推進室が作成した。教職員のメーリングリストを用いて周知の上、web 形式（学内専用）にて、対象者が無記名で回答した。

実施期間

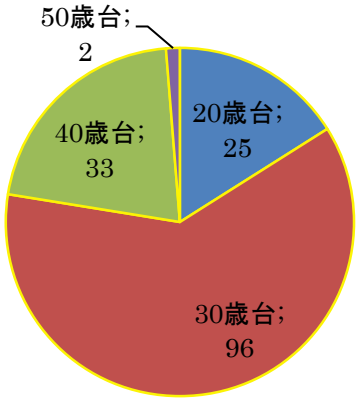
平成 23 年 10 月 7 日より 11 月 9 日までの回答を集計対象とした。

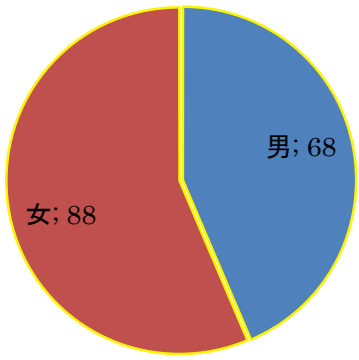
結果

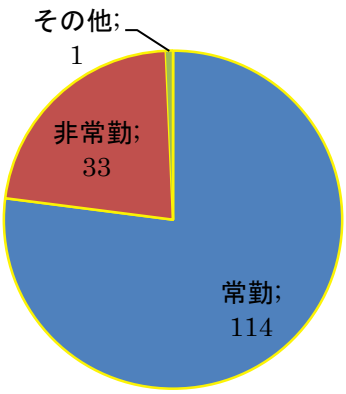
1.　回答者

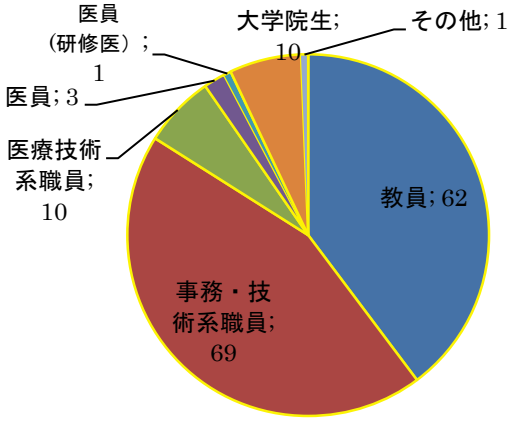
156 名から回答が得られた。

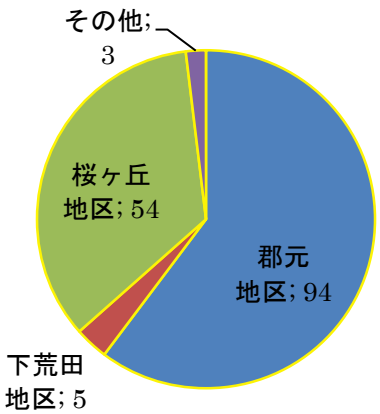
Q1　回答者の構成





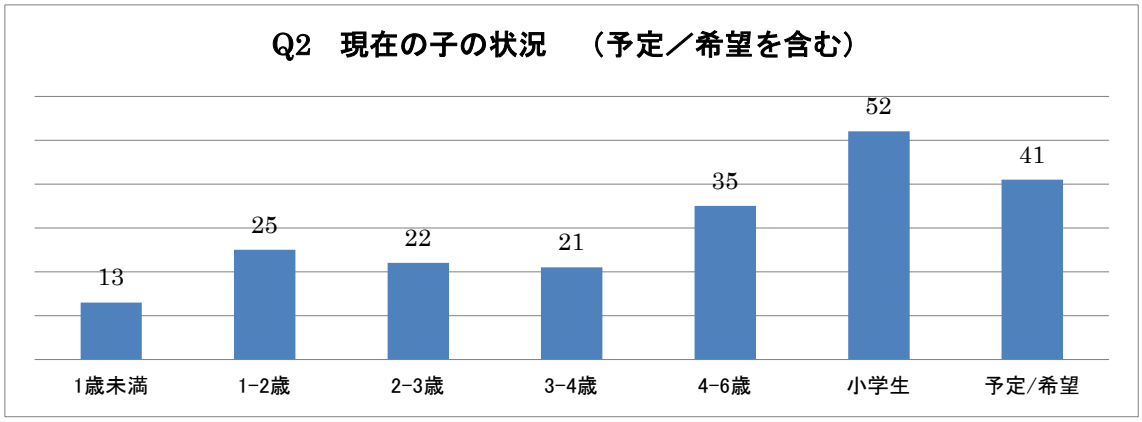






2.　アンケート回答者の子育て、保育の状況

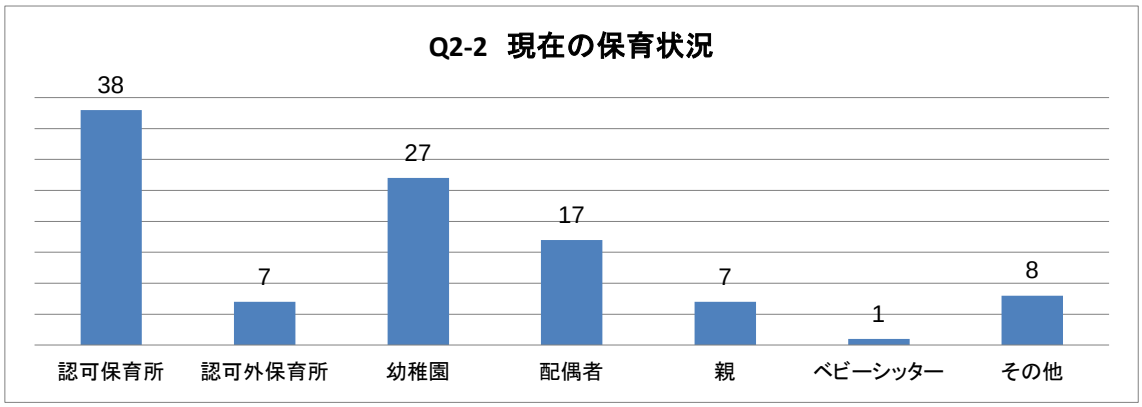
Q2-1 現在の子の状況



回答者 156 名は、乳児（ー1 歳）13 名、幼児（就学前）103 名、小学生 52 名　計 168 名の子を持っている。回答者の修学前の子供の数は平均 19.3 名／年である。

子供をこれから持とうとしている人、乳児から小学生までの子育てをしている人を対象とした支援を考慮する必要がある。

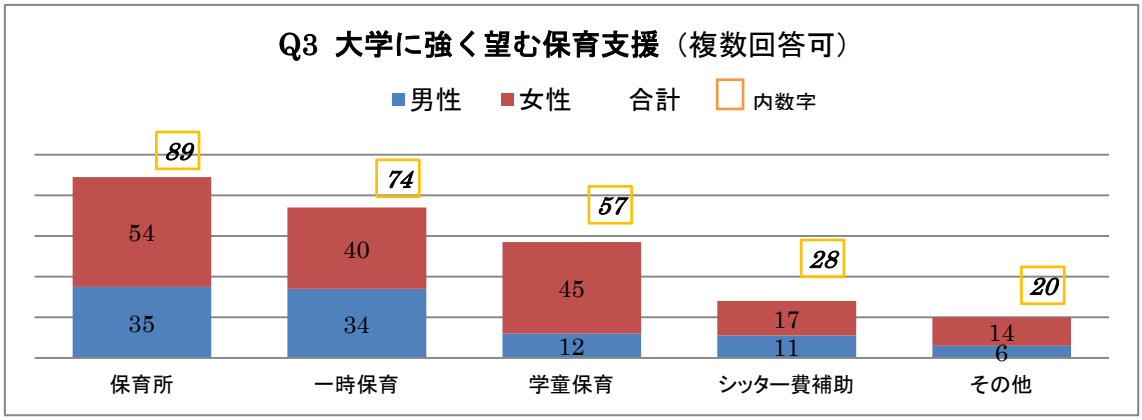
Q2-2 現在の 0 歳から修学前児 116 名の保育状況

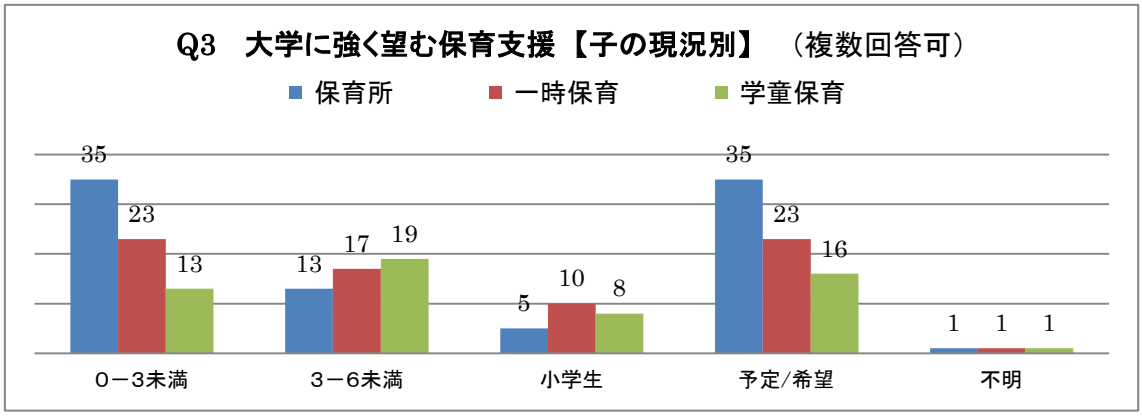


勤務時間帯の保育を行う社会資源の活用として、認可、認可外を問わず保育所を利用している人は 45 名、ベビーシッターは 1 名であった。

3. 保育全般に対するニーズ

Q3 大学に強く望む保育支援





	回答者数	保育所		一時保育		学童保育	
0-3 未満	54	35	64. 8%	23	42. 6%	13	24. 1%
3-6 未満	34	13	38. 2%	17	50. 0%	19	55. 9%
小学生	25	5	20. 0%	10	40. 0%	8	32. 0%
予定／希望	38	35	92. 1%	23	60. 5%	16	42. 1%
計	151	88		73		56	

0-3 未満：3 歳未満の子供がいる人、3 歳以上の子供のいる人も含む

3-6 未満：3 歳以上 6 歳未満の子供がいる人、小学生がいる人も含む

小学生：小学生のみがいる人

※本表は、子の現況が不明の人を除いて作成したもの

・ 保育所の設置　89 名（57.1%）が希望している。

89 名中 35 名は男性が希望しており、これは性別に関わらない保育支援のニーズであることを示している。

現在 3 歳未満の子を持つ人と予定／希望している人が現実的な問題として保育所の設置を強く希望している。

・ 一時保育　74 名（47.4%）が希望している。

全ての年齢の子供を有している人が一時保育を希望している。

・ 学童保育　57 名（36.5%）が希望している。

3 歳以上の子供を有している人は保育所、一時保育も希望しているが、学童保育の支援をより希望する傾向が見られた。

以上の結果は、現在の保育環境の整備充実への希望だけではなく、近い将来の子育て支援に対する不安を反映した大学への支援の希望となっている。大学が将来にわたる教職員に対する子育て支援を明示することで教職員の不安が軽減するため、0 歳児から修学前までの幼児を対象とする積極的な保育支援が求められている。

・ ベビーシッター費補助　28 名（17.9%）が希望している。

ベビーシッターの現在の利用者は 1 名に留まっているが、28 名が費用の補助を希望している。費用負担が利用を妨げていることが考えられ、大学からの支援の必要性が示された。

その他の支援として

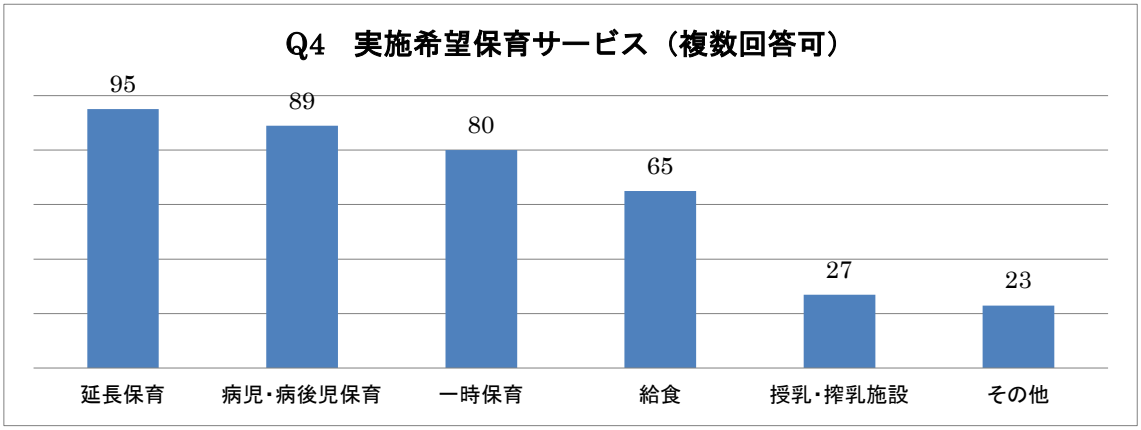
病児（発症時より）病後児保育（回復期）をあげた人が 14 名であり、その中の意見として

> 病児保育が、現在は利用日前日の 17 時までの予約でないと利用できないが、市の病児保育室と同様に当日朝でも空きがあれば利用できるようにしてほしい。また、一時保育の費用と病児保育の利用を合わせると一日で 6,000 円以上かかる。市の病児保育室では 2,000 円で利用できる。市の病児保育室は満室で利用できないことも多いので、仕事を休んで看病しないといけないことがあり、大学内で同じように利用できる施設があると必要以上に仕事を休むこともなくなり、大変助かります。
> 大学の小児科にかかれると助かります。

という意見があった。その他保育料や手当、特別休暇、労働時間の自由度、不妊治療中の勤務時間の考慮、祝日の授業実施に必要な休日の保育可能な施設、休日および夜間勤務の免除等があげられた。

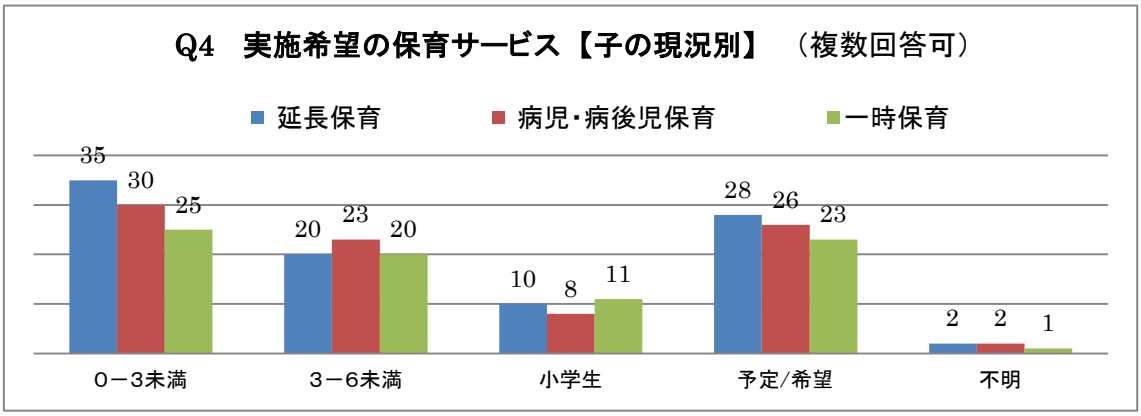
4.　郡元地区保育所設置に対するニーズ

Q4 仮に郡元地区に保育所を設置した場合の実施希望保育サービス



延長保育 95 名（60.9%）、病児（発症時より）／病後時保育（回復期）89 名（57.1%）、一時保育（短期、不定期の利用）80 名（51.3%）と回答者の過半数以上が受入れの時間と対象とする子供についての希望を示した。

【子の状況別】



	回答者数	延長保育		病児・病後児保育		一時保育	
0-3 未満	54	35	64.8%	30	55.6%	25	46.3%
3-6 未満	34	20	58.8%	23	67.6%	20	58.8%
小学生	25	10	40.0%	8	32.0%	11	44.0%
予定／希望	38	28	73.7%	26	68.4%	23	60.5%
	151	93		87		79	

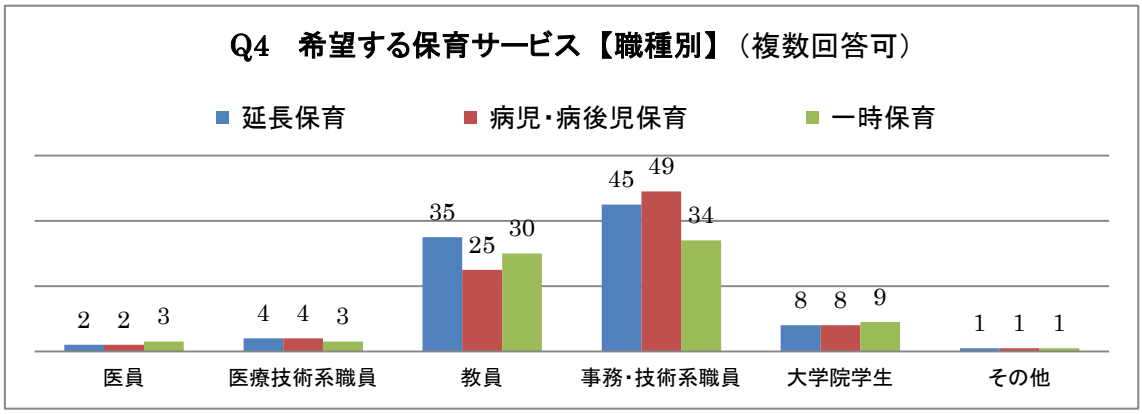
0-3 未満：3 歳未満の子供がいる人、3 歳以上の子供のいる人も含む

3-6 未満：3 歳以上 6 歳未満の子供がいる人、小学生がいる人も含む

小学生：小学生のみがいる人

※本表は、子の現況が不明の人を除いて作成したもの

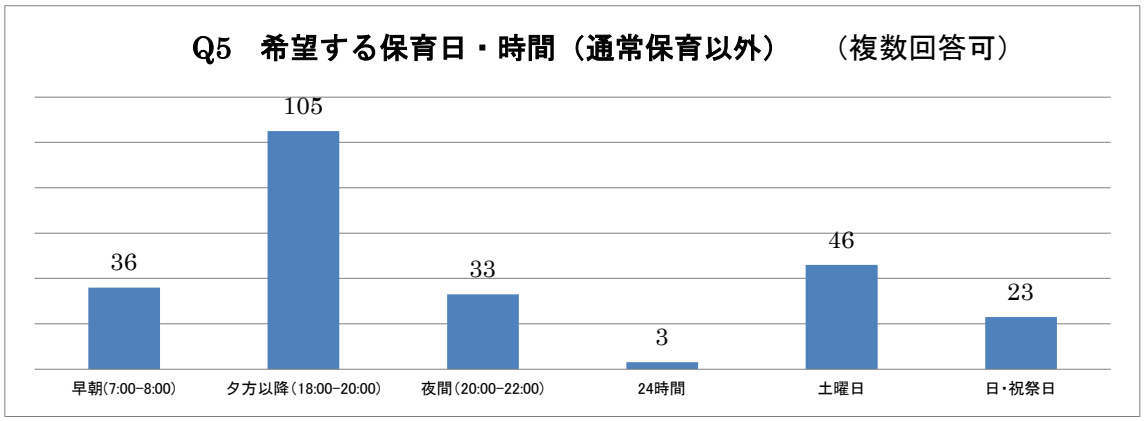
【職種別】



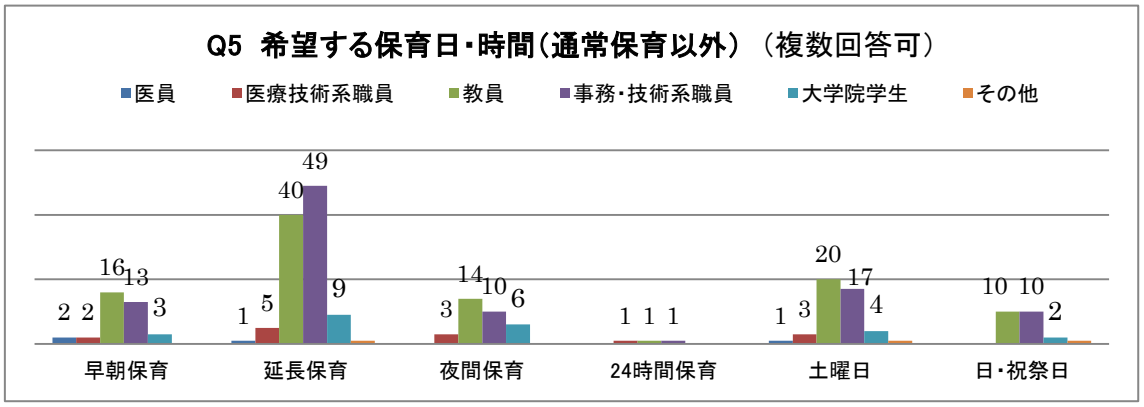
	回答者数	延長保育		病児・病後児保育		一時保育	
医員	4	2	50.0%	2	50.0%	3	75.0%
医療技術系職員	10	4	40.0%	4	40.0%	3	30.0%
教員	62	35	56.5%	25	40.3%	30	46.2%
事務・技術系職員	69	45	65.2%	49	71%	34	49.3%
大学院学生	10	8	80.0%	8	80.0%	9	90.0%
その他	1	1	100%	1	100%	1	100%
計	156	95		89		80	

全ての職種で希望が見られ、中でも勤務時間の固定した事務・技術系職員、研究を行う大学院学生が延長保育、病児・病後時保育を希望している。

Q5 通常保育（8：00ー18：00）に加え、必要な保育日・時間の希望



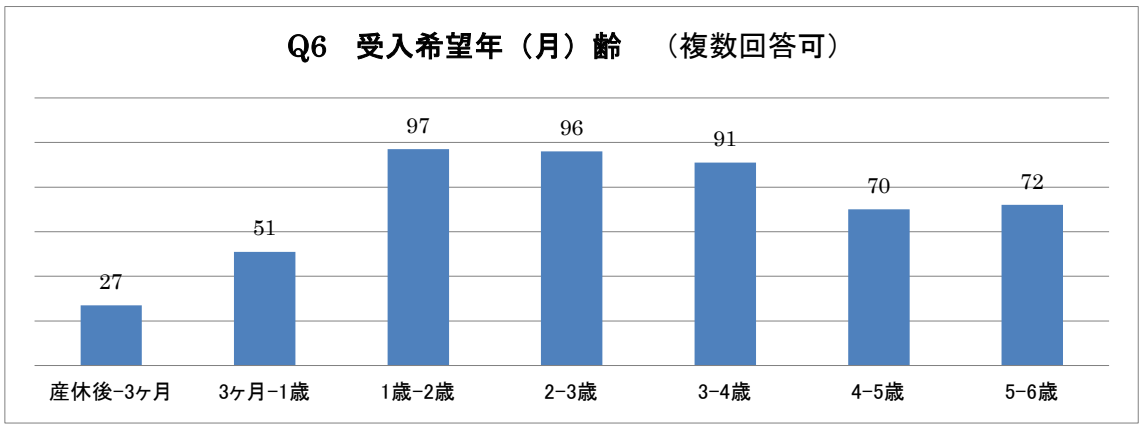
【職種別】



	回答者数	早朝		延長（ー20:00）		夜間（ー22:00）		24 時間		土曜日		日祝祭日	
医員	4	2	50.0%	1	25.0%	0	0%	0	0%	1	25.0%	0	0%
医療技術系	10	2	20.0%	5	50.0%	3	30.0%	1	10.0%	3	30.0%	0	0%
教員	62	16	25.8%	40	64.5%	14	22.6%	1	1.6%	20	32.2%	10	16.1%
事務・技術系	69	13	18.8%	49	71.0%	10	14.4%	1	1.4%	17	24.6%	10	14.4%
大学院学生	10	3	30.0%	9	90.0%	6	60.0%	0	0%	4	40.0%	2	20.0%
その他	1	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	156	36	23.0%	**104**	**66.6%**	33	21.2%	3	1.9%	45	28.8%	22	14.1%

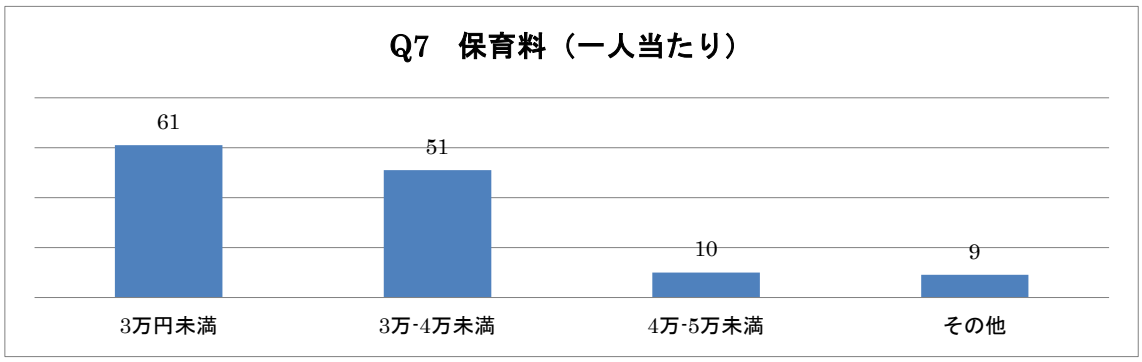
職種による違いはあるが、早朝から夜間まで、特に 20 時までの保育の希望者が多い。週末や祝祭日の希望者もいる。

Q6 受入希望年（月）齢

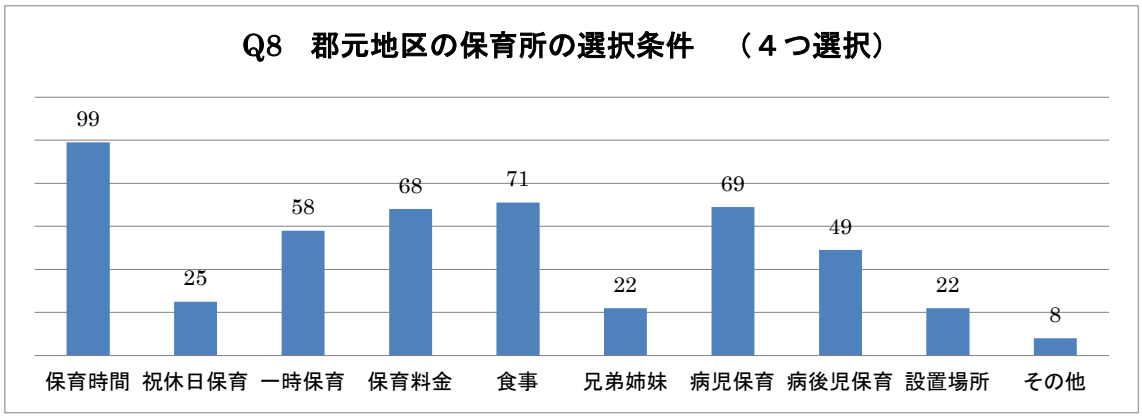


産休後（9 週）から修学前まで全ての年齢での受入希望があり、現在のあおぞら保育園（学内授乳所）では対応できていない状況が明らかとなった。

Q7 利用する場合の支払っても良いと思う保育料（一人当たり）

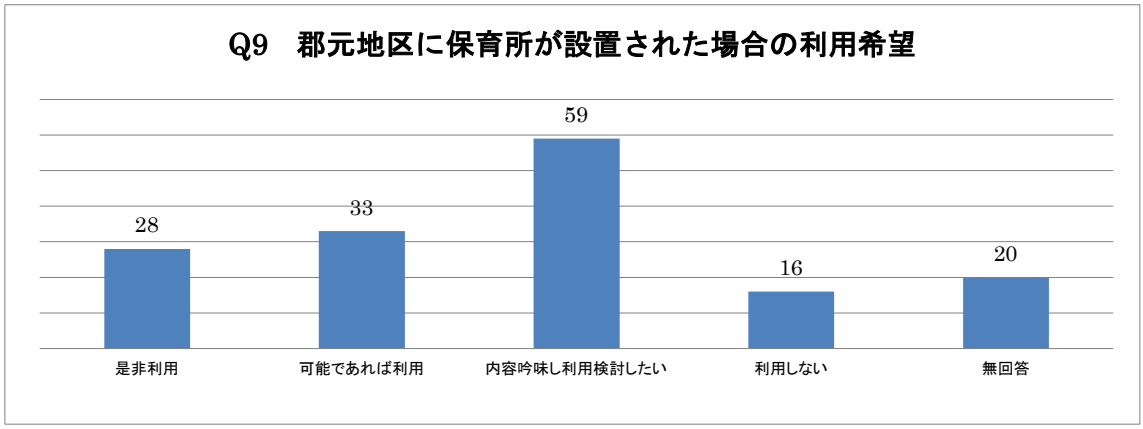


Q8 郡元地区に設置する保育所を選択する条件として重視するもの



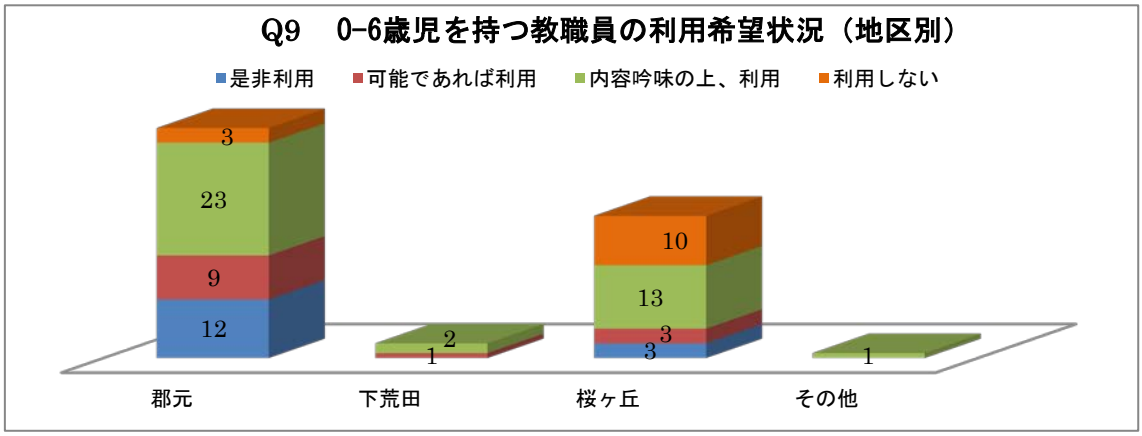
保育時間を選択条件としてあげる人が 99 名と高かった。

Q9 郡元地区に保育所が設置された場合の利用希望

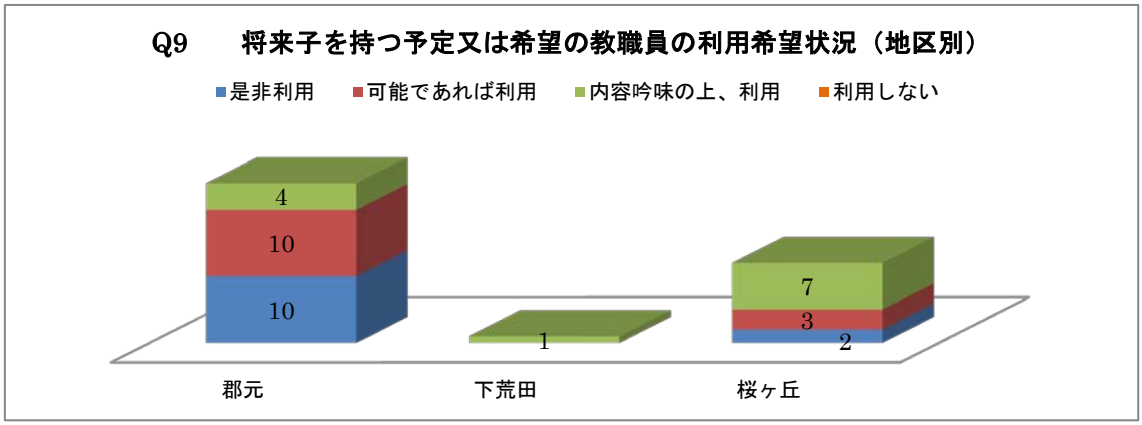


是非利用したいと回答した人が 28 名いる。可能であれば利用、サービス内容等を吟味にして利用を検討と答えた人とあわせると、郡元地区の保育所を利用する可能性がある人は、156 名中 120 名（76.4%）となっている。

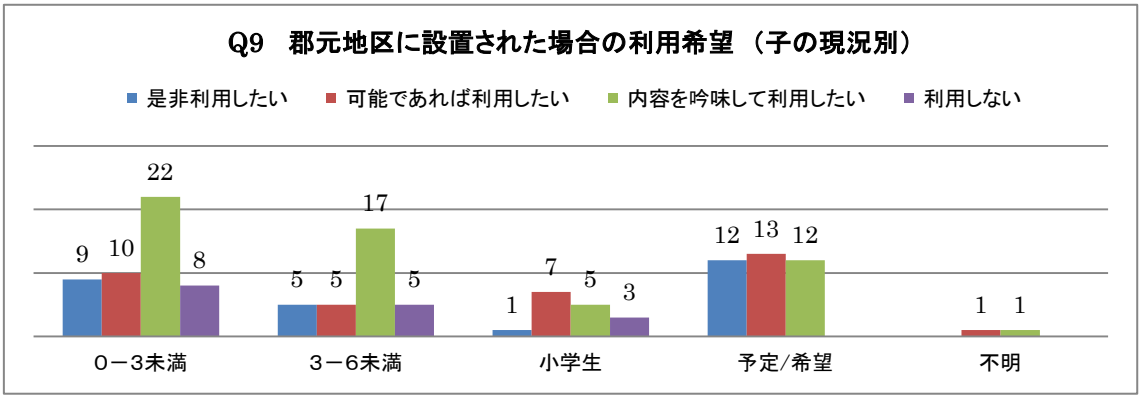
【0-6 歳児（保育所対象児）を有する教職員・地区別】



【子を持つ予定／希望する教職員・地区別】



【子の現状別】

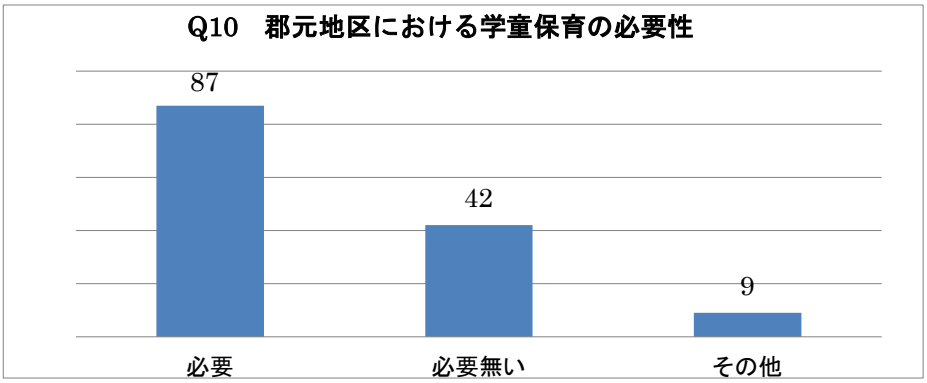


現在保育所の預入対象児である 6 歳未満の子を持ち、郡元地区で勤務する人は 44 名、下荒田地区、桜ヶ丘地区で勤務する人でも 22 名、計 66 名が利用する可能性があり、うち 15 名は是非利用したいと回答している。将来子を持つ予定／希望する人では、郡元地区 24 名、下荒田と桜ヶ丘地区 13 名、計 37 名が利用する可能性があり、うち 12 名が是非利用したいと回答している。利用しないと回答した人はいなかった。

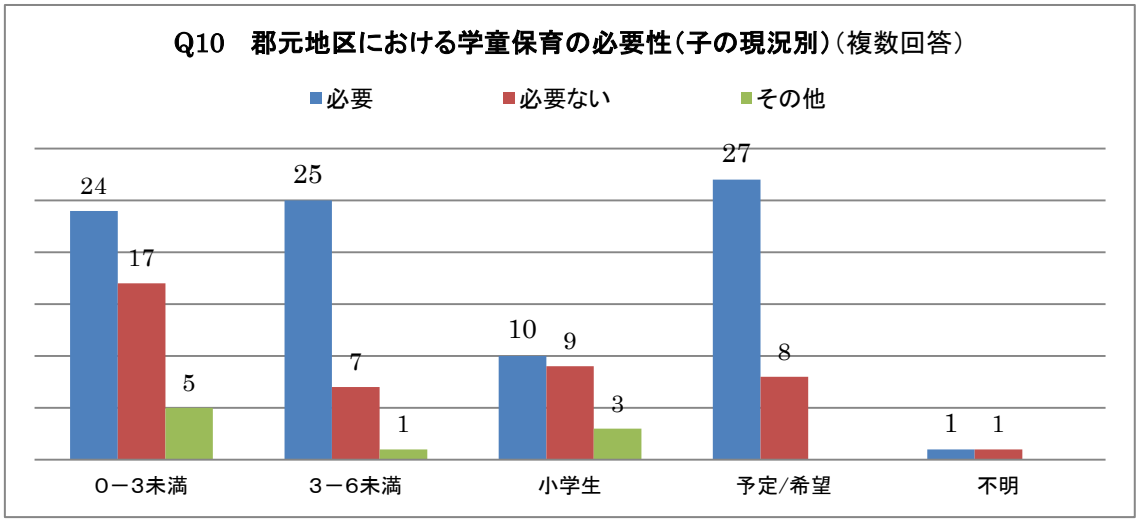
5.　郡元地区学童保育に対するニーズ

Q10 郡元地区における学童保育の必要性

計 138 名が回答しており、必要 87 名（63.0%）、必要無い 42 名（30.4%）、その他 9 名（6.5%）であった。

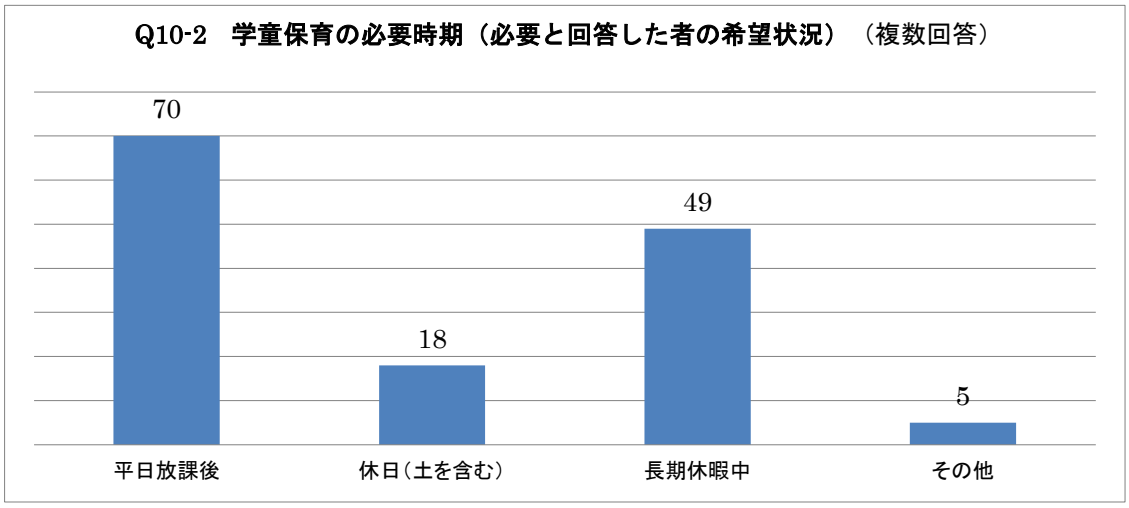


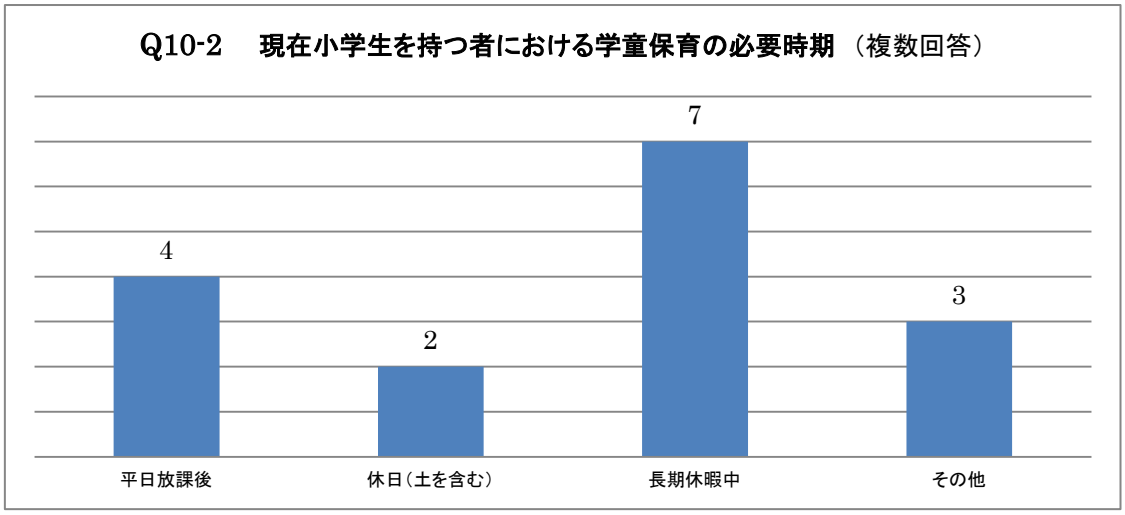
【子の現状別】



特にこれから小学生を持つことになる人が希望している。

【必要な時間帯、時期】





平日の放課後及び長期休暇中の学童保育の希望が多い。

6. 保育所設置場所について（自由記載）

- キャンパス内にきちんとわかる場所に設置してほしい。冷暖房完備し、子どもが遊べる遊具（戸外）も設置してほしい。
- 現在の保育所は園庭が狭く、場所も体育館の裏にあり日当たりがよくないのでは？子供が外でも遊ぶことができ、防犯上も安全な場所がいいと思います。
- 中央図書館内（新たに建物を建てるとなると、場所の確保・予算等の問題が出てくるので、既存の建物内で環境の整った所を考えると図書館が一番可能性があるように思う。）
- 保健管理センター近くの方が、医師も在駐しているのでケガや病気の際安心できると思う。
- 子どもの安全を第一に考えて場所を選定していただけるよう強く要望いたします。
- 設置場所に関してはどこでも構いません。是非設置を要望します。
- 当然、学内にしてほしい。愛媛大学の例を参考にしてほしい。（教育学部内の敷地に設置している。）
- 附属幼稚園を活用してはいかがでしょうか。今後、幼保一元化の方向に進むようですので。
- 郡元の「あおぞら保育園」の受入年齢や人数、受入時間等がもっと充実すれば利用したいと考えます。
- 郡元地区の近くだととてもうれしいです。
- あおぞら保育園の場所を拡張すれば良い
- 市の認可保育所は待機児童が多く希望通りに入所できないので、郡元キャンパスに設置してもらえれば利用したいと思います。その際、認可保育所と同様の制度であることを望みます。（給食の支給、おやつの支給、延長保育時のおやつの支給、運動会等の催し）
- 現在の場所は車の出入り口かつ大通りの近くであり、交通事故が心配。保健管理センターの近くなどは医師も近くにおり、安心できる。保健管理センター向かいの駐車場のあたりなど良いのでは。農場にも近いので車の出入りが少ない場所で散歩などもできるのでは。
- さくらっこ保育園も定員を増やさないと、看護師さんたちだけでも数百人いるので、預けられると思っていたので、実際は預けられなかったということが出てくるのではないかと思います。
- 現在あおぞら保育園に２歳児および６ヶ月児を全日で預けております。先生方は一生懸命保育環境を整えようと少ない予算でがんばってくださっていますが、建物が日が当たらない場所に立っている上に老朽化しており、冬場はすきま風が入り込むような状態です。園庭も小さく、なかなか整備できない状況であり、保育には不十分な環境と思われます。（それでも、先生方の温かく行き届いた保育に感謝し、満足しておりますが・・・・環境が整うことを先生方を含め切望しております）

- 自宅が遠方なので，郡元キャンパス内に設置していただけると助かります。
- 今の場所で良いが，環境面等から，附属幼稚園の園庭で遊べる時間などがあったらありがたい。
- 学内保育所ではキャパシティの問題があり、希望者全員が利用できない（実際私もそうでした)。そういう方は学外の保育所を利用することになるが、「遅くても最大夜 7 時まで」など園によっては制限がある。仕事でどうしても夜遅くまでいなければならないときに、いったん 6 時に学外保育所に子どもを迎えにいき、その後学内保育で夜間など預かってもらえれば非常にありがたい。しかし現在の部署は忙しいながらも、周囲の職場スタッフが協力・心遣いしてくれて非常に助かっている。鹿児島大学職員のこういう態度は大変素晴らしいと感動している。
- 保育所に預けたくても，募集人員がいっぱいのところが多く，難しいのが現状であるので，勤務地に近いところにあれば，利用しやすく，安心である。ぜひ郡元地区にも設置していただきたい。
- 唐湊電停前の角地（民有地）を買い（戻し？)、設置。
- 上記にもありましたが、病児・病後児保育については特に支援が必要と感じます。鹿児島市はいくつかの医療機関に委託して病児・病後児保育を行っておりますが、利用可能人数が少ない上予約制という事もあり、急な発熱等の場合予約が取れない事が殆どです。風邪が流行りやすい時期は全く利用できないという現状です。そういう時はやむを得ず休暇を頂く等して対応しています。もし、学内に病児・病後児保育を整備して頂けるのであれば大変有り難いですし、安心して業務に就けるので是非利用させて頂きたいと思っています。なかなか難しい点もあるかと思いますが、是非ご検討を宜しくお願い致します。
- 教育学部東門より入って左側から附属幼稚園までの地帯が妥当だと思います。
- 現在の場所は適地とはいえない．可能であれば自然環境が残っており，見晴らしのよい場所（農学部キャンパスの適地）がないかどうか．これまで組合の先駆的取り組みで支援されてきたが，保育所運営を今の形態から大学の直接的・全面的運営へ早急にに移行すべき．
- 居住地域によっては、保育園が１つしかなく、遠方保育園に当選し通園する幼児も多い。送迎時間にも職場での突発的用務が発生すると近場だと慌てずに送迎できる部分も大きい。
- 郡元地区と鴨池地区と荒田地区
- 病院や研究室の近くだと、化学物質が至る所にあるので、なるべく自然に近い環境に設置して頂けると幸いです。
- 道路の交通状況を踏まえた場所、地域の住民に出来る限り迷惑のかかりにくい場所。送迎等で渋滞にならないようしてほしい。
- 今の幼稚園の近くは？どうでしょうか？幼稚園と合同で出来る物は、やって…共有出来る物はしたらいいと思います。
- 特になし

- 素晴らしい試みだと思います。ぜひ，設置してもらえるとありがたいです。
- 郡元地区の可能な場所。ただし、車の乗り入れができることが条件。
- 現在，妻が育児を担当しているので，保育施設を利用していないが，妻が就業を考える場合は，どうしても必要になってくると思う。送り迎えを協力するとなると，早朝で預かってもらえると，通勤途中で保育施設に預けられるので，とても利便性が高いと思う。

7　保育所以外の保育支援について（自由記載）

- 保育を必要とする教職員がいる部局には優先して人件費をつけてほしいと願っております。保育所を完備していただいたとしても、子育てをする以上、どうしても勤務時間に制限がかかる（夕方以降の業務ができない、土日はなかなか業務につけない等）が、その勤務時間を調整するには、代わりに業務をこなす人材がいないことには調整しようにもできません。それは部局全体の業務が滞り、結局、子育て中の職員が「肩身の狭い思いをする」という状況は変わらず、当該者が業務を続けることが困難になることにつながると思われます。
- 朝と夕方の勤務時間を短くする制度があることは知っているし、利用したいという気持ちはあるが、自分ができない仕事の分、周りの他の方の仕事量が増えると思うと取りづらい。また、仕事量は変わらず勤務時間が短くなると仕事がどんどん溜まっていくと思うと、取りづらい。この制度を利用しやすい環境づくりをしてほしい。病児保育・病後時保育は強く望みます。鹿児島市内には、病児保育・病後時保育をしている小児科が４か所しかなく、定員も少ない。タイミングがよければ預けられるが、冬場は特に利用者が多く預けにくい。そうなると、親が休むほかなくなるので、是非病児保育・病後時保育をしてほしい。
- 妻が病気で家事が出来ない場合、幼稚園降園後の子供を自分の両親に預けることがあるが、８０歳代と高齢なため、体力的な負担を考えると、預ける時間にも限度がある。そのため、自分が家事（食事の準備・子供の入浴等）を代わりに行う必要が生じるが、その間は残業を行わずに帰宅できるような職場の理解・雰囲気をつくって頂きたい。
- 夏休みなど子どもが長期休暇中に図書室やキッズルームのようなところがあれば、小学生以上にもなれば、各自で利用できるし、家で留守番させるより親としても安心して仕事に取り組めると思う。
- 大学が保育所を設置した場合、既存のあおぞら保育園との関係がどうなるのかが気になります。
- 一時託児の困難な環境にある（実家が近くにない等）家庭にとって、所属機関の保育の支援は職員の職務意識向上など様々な点で大きく寄与されると思いますので、是非設置を要望します。特に夫婦共働きの家庭への配慮を考慮して欲しいです。
- 保育に限定でなく、小学６年生までを含む「学童」も保育と区別して希望を取り入れてほしい。また、その際に例えば教育学部等、将来教員を目指す学生にとっての学びの場ともなり得るような工夫があればなお良いと思う。
- 保育園は地域の保育園でも延長保育が可能であったり比較的選択肢も多いが、小学生になるとむしろ帰宅時間は早く、保育園時代よりも大変である。特に長期休暇では毎朝弁当作りに始まり、留守番時間も長くなるため、苦労している。地域でカバーできない学童期の方がむしろ支援が必要である。
- まず附属小学校に学童保育所を設置してはいかがでしょうか。鹿児島市内のその他の小学校にはほとんど設置されているようですので。

- 上記にもありましたが、病児・病後児保育については特に支援が必要と感じます。鹿児島市はいくつかの医療機関に委託して病児・病後児保育を行っておりますが、利用可能人数が少ない上予約制という事もあり、急な発熱等の場合予約が取れない事が殆どです。風邪が流行りやすい時期は全く利用できないという現状です。そういう時はやむを得ず休暇を頂く等して対応しています。もし、学内に病児・病後児保育を整備して頂けるのであれば大変有り難いですし、安心して業務に就けるので是非利用させて頂きたいと思っています。なかなか難しい点もあるかと思いますが、是非ご検討を宜しくお願い致します。
- 保育料の補助。子供が病気の時がとっても困るので、何か支援してもらえたらとっても助かると思います…子供が理由で早退した時などは年休を利用して早退しているのですが、子供が 3 人共まだ小さいために病気も多く、年休があっという間に減ってしまいます。仕方ないことなのですが、自分の為に休むことはほとんどできません。
- 今は思いつかない
- 学童保育の設置も強く望みます。現在の市の学童保育は保育所の通常保育時間１８時までのところが多く低学年児を持つ時期は保育所の時期よりも育児に悩みます。保育所と併設でも良いと思いますので設置があると嬉しいです。学校の長期休暇中においては、給食を提供してもらえるとすごく良いです。保育支援が充実する事を願っています。
- 今年の 4 月から働き始めました。昨年 2 月、3 月に大学内の課で 2 つ面接を受けましたが、保育施設があるということは面接官から全く話はありませんでした。「子どもの預け先は確保されているのか？」「子どもは病気がちではないのか」ということを尋ねられ、子どもをかかえて働くことは、マイナスなのかなと感じました。今は夕方まで延長保育のある認定こども園に預けていますが、面接の時に大学の保育施設が利用できるということを聞いていれば、申し込んでいたと思います。
- 保育日に関して・・普段は土、日、祝日は必要としないが、オープンキャンパス、センター試験、大学入試、学生の卒論発表、などの大学行事が土日に重なり出勤しないと行けない場合は預ける事が出来ずに　休まざるおえない場合があるので、土日祝日に関しては　行事があるときだけでも開園していれば助かる。子どもが病気になったとき、民間の病児保育 3 件ほど電話しても予約が一杯で断られるので、桜ヶ丘の保育園でも病児保育として預かってもらえると　遠くても預けに行くと思う。
- 全職員対象に、保育中の職員への理解を促進する講習や学習会を開催して欲しいです。仮に保育設備が整っても、まだまだ上司や同僚の保育中の職員への理解が十分とは言えないと感じます。
- 小さい子供は病気をしやすいので、何か特別な休みがあってもいいのではないかと思います。看護休暇以外で。
- 夜間にかかる会議などは自宅で参加できるように、テレビ会議ができるようなシステムがあるとよいと思います。
- 病児保育はぜひしてほしい

- 保育所の充実とともに，就労時間における支援を望んでいます。今の職場は，任意ではあるが研修や会議が１８：００以降週に２，３回あり，勤務遂行上どうしても２０時，２１時まで退庁できない状態です。子どもを預ける場合，主人が迎えに行ってくれることになると思いますが，未就学児の間は，勤務時間内で退庁しやすい環境であってほしいと思います。会議に出席することは重要であり，どのように育児と両立できるのか，不安に感じています。
- 子供が病気になったときに、市内の病児保育施設にはキャンセル待ちばかりでなかなか入れず、結果仕事を休んで迷惑をかけてしまい心苦しい事が年に何度かあります。病児保育が増えれば、大変助かります。職員のインフルエンザ予防接種が職場で受けれてとても便利なのですが、市内の小児科は予約を取るのがなかなか難しく、取れても親の就業時間内だったりするので、夕方仕事が終わった時間帯に予防接種を受けれるサービスがあればとっても嬉しいです♪…贅沢すぎでしょうか？
- 夏休みなど長期休暇時のみの学童保育してもらえる環境があればありがたいです。(桜ケ丘地区)
- 病気や予防接種の特休をもう少し増やして頂けると助かります。
- 桜ケ丘地区で病児・病後児保育を実施してほしい。
- 勤務時間を自由に調整できることが認められるといいと思います。週４０時間を確保して、それを個人と係の裁量で調整可能にしてほしい。
- 教育学部学生にとっては学童保育など最近の家庭の実情や児童についておおまかに感じることもできると思うので、学校教育について学ぶだけではなく、教育学部の利点をぜひ活かしてほしい。
- 特にありません。
- そもそもこのアンケートは発想がおかしい。こどもの事を全く考えていない。子供を持ったことがない人が作ったんですか？こどものことを考えたら、保育時間や補助金を増やすのではなく子供を持つ職員と子供が家庭で一緒にいられる時間を確保するにはどうしたらいいか、を真剣に考えないとワーク・ライフ・バランスにならない。(例えば）無理を承知で言うが、幼稚園以下の子供がいる（非常勤）職員の残業を禁止した上で定時を早めるとか。まぁ、これは無理でしょうから、他に何かアイデアがあるといいですね。でもこのアンケートの結果だけで何かを判断するのはダメだと思いますけど。
- 現在、児童クラブを利用していますが、４年生以降は利用できないシステムになっています。保育所で学童保育も行っていただければと思います（６年生まで）
- 学童保育についても支援が必要と感じます。鹿児島市の学童保育対象は１年生～３年生ですが、子供が被害となる犯罪が多い現代、小学生の子供を１人家に残すのには不安を感じる為、１年生～６年生の学童があれば・・・と思います。全国的にも「６年生までの学童保育」のニーズが高まっているので、是非ご検討頂ければと思います。
- 子供が小さい間は、病気は勿論、予防接種や市が指定している健診などで休みを取らざるを得ないことが多々あるため、小学校就学前までの子供を持つ親には特別休暇等

の対策や、休みの取りやすい環境づくりを進めて欲しい。

- また、幼稚園でも延長保育サービスがあるが曜日が決められており毎日は預けられない。また、休園日などに民間に預ける際、子供も親も慣れていない場所より職場に近い場所だと子供も親も安心できる部分がある。子供が病気の場合、病児保育(現在ある小児科など)人数が限られて当日預けられない事もある。また、在園児童でなかれば預かってくれない病児保育もある為、職場に近い場所に保育支援があるととても助かる。
- 育児や介護に関わる状況にない人たちの、理解が足りないと強く感じる。施設充実もだが、周りの人間たちの意識改革についても啓発活動を積極的に行ってほしい。
- 授乳室、おむつ交換台。
- ご年配の方との交流(過去の体験談、おもちゃの作り方、食にまつわること、等)のために老人ホームを訪問することなど、通常、個人では実行し難い事なので、そのような貴重な体験をさせて頂きたいです。
- 市の学童保育が小学 3 年生までで、4 年生からの保育を心配しています。とくに長期休みとなる夏休みをどう過ごさせるかが悩みです。4 年生なので家にいても大丈夫だと思いますが、長期休みの間だけでもみていただけたら安心して仕事ができます。
- 長期休暇（夏休みなど…）や振替休日（運動会や日曜参観）毎日でなくても良いので、安心して預けられる所があれば良いと思う。午前中だけでもいいと思う。小学生全学年を対象にしてくれたら…と思います。
- 特になし
- 長期休み（夏休み・冬休み・春休み）期間の学童保育が実現すると非常に助かります。公立小学校の学童保育は、鹿児島市の場合３年生以下に利用が限られていますが、長期休み期間中、子どもをほぼ終日１人にするのは心配なので、もし実現可能な場合、上学年（４年生以上）も利用できるようにして欲しいです。
- 保育園利用者の自動車通勤の緩和。パスカード等の発行。
- 個人的には必要としていませんが，必要としている方は多くいると思います。環境整備を進めることが，優秀な人材を獲得することにもつながるとおもいますので，予算や設置場所等，課題は山積していると思いますが，現状から前進していくことを望みます。
- まだ幼児なので学童保育については考えていないが，妻が就業を考える場合は，必要があると思う。

総括

本アンケートは、桜ヶ丘地区には保育所があるものの、郡元地区には、あおぞら保育園（授乳所）のみが設置されている現状において、勤務している教職員の育児・保育に関する実状と大学からの支援に関する希望状況を把握するために実施したものであり、結果から、本学の教職員は、大学に対して様々な育児支援や保育支援を期待していることが明らかになった。

郡元地区に保育所が設置されたならば利用を検討する人は、アンケート回答者 156 名中 120 名であり、なかでも 28 名が是非利用したいと回答している。また、すべてのキャンパスから郡元地区の保育所設置についての希望が出ている。現在 3 歳未満の子を持つ人と将来子を持つ予定／希望の人が、特に郡元地区の保育所を希望していることからも、大学が子供を産み育てる環境を提供することの重要性を示しており、保育所が設置されたならば、十分に活用される可能性があるといえる。

先に触れた「あおぞら保育園」は、40年以上の歴史を有するが、社会情勢の変化や家族形態の多様化など、新たなニーズへの対応も求められている。しかし、保育施設とは単なる預かり所ではなく、子どもの豊かな発達と学びを保障していく場である。これまでの当保育園の経験を活かしながら、大学と教職員が共同で仕事と子育てを充実させていく取り組みが不可欠である。

また、通常保育以外にも延長保育、病児・病後児保育、および一時保育の希望も職種による業務の多様性を反映して多く示されたほか、保育所の内容を吟味して利用したいと回答した人が多いように、教職員が保育環境を真剣に考えて、仕事と子育てとの両立を考えている様子がうかがわれる。また、平日の午後と長期休暇中の学童保育を必要と回答した人が 87 名おり、学童を持つ教職員に対する保育支援の必要性も明らかになった。

大学という特殊な職場の多様な勤務形態をとる教職員の希望に、現状の保育、子育てに関する社会基盤、資源のみでの対応は困難である。また、職場における理解もまだまだ十分とは言い難い。その中で教職員が悩み、苦労しながら業務を行っている実態がある。本学が保育所設置・学童保育などの保育支援策を検討することは、これらの多くの問題解決のスタートとして、また家庭生活との両立をしながら、個人の能力を発揮することを目指す大学として、その意義は極めて大きいであろう。

男女共同参画推進室推進部会ワーク・ライフ・バランス支援部門
「保育所整備充実等に関するニーズ調査」ワーキング・グループ
大学院医歯学総合研究科　教授　　田川 まさみ
教育学部　准教授　　前田　晶子
学長補佐（教育学部　教授）　　田島　真理子

付表　アンケート用紙

回答期限:
11月9日(水)

保育所整備充実等に関するニーズ調査

小学生以下のお子さんをお持ちの方
近い将来お子さんをお持ちになる予定あるいはご希望の方

鹿児島大学は男女共同参画の基本理念として、社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現することを掲げました。

現在、郡元地区に授乳所「あおぞら保育園」(定員 10 名)、桜ヶ丘地区に「さくらっ子保育園」(定員 30 名) が設置されていますが、仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) を図りながら、働き続けることができるように、また更に責任ある立場で活躍するために、保育支援の改善充実など多様な支援を求める声が大きくなっています。

そこで、保育所を主とする保育支援に係るご意見やご要望を今後の企画立案の参考とするため、アンケート調査を実施いたしますので、ご協力いただきますよう何とぞよろしくお願いいたします。

男女共同参画推進室

※アンケート結果は、個人が特定できない形で統計的に利用します。自由記述も個人を特定できない形で転記させていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。

Ⅰ　あなたご自身について答えてください。

(1) 年齢
1　20 歳代　2　30 歳代　3　40 歳代　4　50 歳代以上

(2) 性別
1　男性　2　女性

(3) 常勤・非常勤の別　(学生の方は、回答不要)
1　常勤　2　非常勤

(4) 職種等
1　教員　2　事務系・技術系職員　3　医療技術系職員
4　医員　5　医員 (研修医)　6　大学院学生
6　その他　(具体的に：　)

(5) 所属地区 (キャンパス)
1　郡元地区　2　下荒田地区　3　桜ヶ丘地区
4　その他 (具体的に：　)

Ⅱ　現在のお子さんの状況（予定や希望を含む）について答えてください。（複数回答可）

1　1歳未満の子どもがいる
2　1歳以上～２歳未満の子どもがいる
3　２歳以上～３歳未満の子どもがいる
4　３歳以上～４歳未満の子どもがいる
5　４歳以上～６歳（未就学）の子どもがいる
6　小学生の子どもがいる
7　２、３年以内に子どもを持つ予定又は希望がある

→　1～5 をお選びいただいた方は現在の保育状況を答えてください。

1）認可保育所　2）認可外保育所　3）幼稚園　4）配偶者
5）親　6）ベビーシッター
7）その他　（具体的に：　　）

Ⅲ　大学からの保育支援として、強く希望するものを選んでください。（複数回答可）

1　保育所　2　一時保育（短期、不定期の利用）
3　学童保育　4　ベビーシッター費補助
5　その他　（具体的に：　　）

仮に郡元地区に保育所を設置した場合について答えてください。（Ⅳ～Ⅸ）

Ⅳ　実施を希望する保育サービスを選んでください。（複数回答可）

1　延長保育
2　病児（発症時より）　・病後児保育（回復期）
3　一時保育（短期、不定期の利用）
4　給食
5　授乳、搾乳のための施設
6　その他（具体的に：　　）

Ⅴ　保育日・時間についておたずねします。通常保育（平日 8：00～18：00）に加え、必要な日・時間を選んでください。（複数回答可）

1　早朝（7：00～8:00）
2　夕方以降（18：00～20：00）
3　夜間（20：00～22：00）
4　24 時間
5　土曜日
6　日曜日、祝祭日

Ⅵ　該当する希望受入れ年(月)齢をすべて選んでください。

＊例：1歳から3歳までの受け入れを希望する場合３，４，５をすべて選ぶことになります。

1　産後休暇終了後～3ヶ月未満
2　3ヶ月～1歳未満
3　1歳～2歳未満
4　2歳～3歳未満
5　3歳～4歳未満
6　4歳～5歳未満
7　5歳～6歳（就学前）

Ⅶ　保育料についておたずねします。利用できるとした場合、どの程度の保育料（一人あたり）までなら支払ってもよいと思われますか。次のいずれかを選んでください。

1　30，000円未満
2　30，000円～40，000円未満
3　40，000円～50，000円
4　その他（具体的に：　　）

＜参考／さくらっ子保育園　通常保育料金(月額)＞
０歳児～1歳児　40，000円　　2歳児～3歳児　30，000円　　4歳児以上　28，000円

Ⅷ　郡元地区に設置する保育所を選択する条件として重視するものを次の１～９のうちから４つお選びください。また、それ以外に特に重視したいものがございましたら、10「その他」を選んで具体的に記入ください。

1　保育時間
2　祝休日の保育
3　一時保育（時間預かり、１日預かり等）
4　保育料金
5　食事の提供
6　兄弟姉妹の受入れ
7　病児保育
8　病後児保育
9　設置場所
10　その他（具体的に：）

Ⅸ　仮に郡元地区に保育所が設置された場合の利用希望について、答えてください。

１　是非利用したい

２　可能であれば利用したい

３　内容を吟味して、利用を検討したい

４　利用しない　（その理由をお書きください：　　）

学童保育についておたずねします。　（Ⅹ）

Ⅹ　郡元地区での学童保育支援が必要ですか

１　必要　　２　必要ない　　３　その他　（具体的に：　　）

→　１を選択された方におたずねします。

いつ必要ですか

1)　平日放課後　　2)　休日（土曜日を含む）　　3)　子の長期休暇中

4)　その他　（具体的に：　　）

ご希望、ご意見等を自由にお書きください。　（ⅪⅠ、ⅪⅡ）

ⅪⅠ　保育所設置について

ⅪⅡ　保育所以外に関する保育支援について

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。